

## 環境経済・政策研究投稿規定・執筆要領

### 投稿規定

1. 環境経済・政策に関する分野での研究論文で、未公刊のものに限る。また、他雑誌との二重投稿を禁ずる。投稿論文を外国語訳し、外国語雑誌に投稿することも禁ずる。
2. 投稿原稿は以下の投稿区分に分類される。(a) 学術研究論文（独創性を有し、学術的貢献度の高い論文）、(b) 研究報告論文（新規性を有し、資料的価値や速報性を重視した論文）、(c) 環境論壇（編集委員会によって設定されたテーマに関する論文）。
3. 環境経済・政策学会の会員・非会員を問わず投稿を受け付ける。投稿者は、著者全員が非会員の場合、投稿料 5 千円（税込）を、また、掲載が決定した場合は、別途掲載料 5 千円（税込）を支払う。ただし、編集委員会が執筆を依頼した場合は、その限りではない。
4. 投稿論文の 1 ページ目に標題、要旨（300 字以内）、キーワード（5 個以内）を入れ、2 ページ目から本文とすること。論文ファイルはそのまま査読者に渡されるので著者名、著者所属、謝辞は論文中には入れないこと。
5. 投稿は、学会サイトから行う。投稿論文は PDF ファイルまたは MS ワードファイルを用いること。著者全員が非会員の場合は、国際文献社（seeps-post@bunken.co.jp）の指示に従い、投稿料を支払うこと。
6. 掲載論文の著作権は、環境経済・政策学会が有する。書物その他の媒体に転載（外国語訳を含む）する場合には、環境経済・政策学会の許可が必要である。

### 執筆要領

1. 使用言語 投稿論文は日本語とし、図・表・参考文献・注釈を含めて 20,000 字以内とする。字数制限は厳守すること。なお、標題、要旨等はこれに含めない。
2. 論文構成 節・項立てとする。
  - 節………1 からアラビア数字順（見出しをつける）
  - 項………1.1, 1.2 とアラビア数字順（見出しをつける）
3. 文体 「である調」を使用し、「ですます調」は用いない。接続詞・副詞などの書き方は、論文を通して統一する（例：「したがって・従って」、「さらに・更に」などと混在させないこと）

4. 数字 原則としてアラビア数字を用いる。ただし、「一意に」、「二重配当」、「二酸化炭素」、「第三セクター」、「三位一体」など、すでに慣用化しているもの、あるいは熟語になっているものは認める。
  5. 年号 原則として西暦を用いる。
  6. 単位語 一般的に周知されている単位は記号を用いる（例：kg, km<sup>2</sup>, t, %など）。専門的な単位は最初に読みとともに導入し、その後記号を使用する（例：ジュール（J））。
  7. 注の入れ方 1), 2)...とアラビア数字で脚注または文末注とすること。
  8. 句読点 「,」（コンマ）, 「.」（ピリオド）を使用する。
  9. 参考文献の引用の仕方は、邦文の場合は著者名（刊行年, xx 頁）、欧文の場合は Author(刊行年, p.xx)等とすること（文献全体を参照する場合、頁番号は不要）。ただし、文章末に引用する場合は、文章（著者名, 刊行年, xx 頁）ピリオドとし、同じく複数の文献を引用する場合は、文章（著者名, 刊行年, xx 頁；著者名, 刊行年, xx 頁）ピリオドとすること。同じ年号で複数ある場合は、著者名(年号 a)というように、小文字のアルファベットを付すこと。共著で著者が 3 名以上の場合、筆頭著者名の後を、邦文の場合は「～他」、欧文の場合は「～et al.」とすること。文献リストは、和洋混在の形式とし、著者名のファミリー・ネームのアルファベット順に並べる。同一著者の文献については、刊行年の古い順から並べる。文献リストに掲載する文献は、本文中で引用した文献に限る。
- 論文の場合の参考文献の書き方
- ・ Cropper, M. L. and Oates, W. E. (1992) “Environmental economics: a survey,” *Journal of Economic Literature*, 30(2), 675-740.
  - ・ 森田恒幸・松岡譲(2002)「地球温暖化予測シミュレーション」『オペレーションズ・リサーチ』第47巻第6号, 353-359頁。
- 著書の場合の参照文献の書き方（ ）内は邦訳のある場合
- ・ Dasgupta, P. (2004) *Human well-being and the natural environment*, Oxford University Press（植田和弘監訳『サステイナビリティの経済学—人間の福祉と自然環境』岩波書店, 2007年）。
  - ・ 宇沢弘文(1974)『自動車の社会的費用』岩波書店。
- 単行本所収の論文の参照文献の書き方
- ・ 都留重人(1996)「方法論上の概念整理」環境経済・政策学会編『環境経済・政策研究のフロンティア』東洋経済新報社。

- Arrow, K. J. (1999) “Discounting, Morality, and Gaming,” in Portney P. R. and Weyant, J. P. (eds.) Discounting and Intergenerational Equity, Resources for the Future.
10. 図・表には、題（例：世界各国の二酸化炭素排出量）および通し番号（図 1,2, 表 1,2 とアラビア数字で）を付すこと。図の場合には図下中央に、表の場合には左上に記すこと。すべてを参照文献のあとに、参照の順番にまとめること。また、文中で挿入部分を指定すること。
  11. 図・表は 1 つにつき、小 400 字、中 800 字、大 1200 字として換算する。1 頁の字数が 2 段組で 1890 字(21 字×45 行×2 段組)であることを参考にして大きさを判断すること。また、大きさを図 1 (大), 表 1 (小) というように指示をすること。
  12. 数式は、 $y = ax + b$  (1) というように、右側に番号をふること。数式 1 行につき、21 字と換算する（1 行以上にわたる数式は、21 字×行数と換算する）。
  13. インターネット上の情報を引用する場合には、注または文献リストに、著者またはホームページ作成者・運営者名、記事またはホームページのタイトル、URL（トップページの URL で代替可）、閲覧した年月日を明記すること。
  14. 投稿原稿は 1 段組とし、行番号を付けること。
  15. 校正の段階での修正は、誤字脱字の訂正に限る。